

(別紙)

第4回学校の木造設計等を考える研究会の概要について

- 1 日 時 平成22年3月2日(火) 10:00~12:00
- 2 場 所 文部科学省文教施設企画部会議室(旧文部省庁舎4階)
- 3 議 事 取りまとめ報告書(案)について
- 4 出席者の主な発言内容

○自治体の担当者にとっても、地域への波及効果が高いということは、木造化に取り組むための一つのポイント。

○木材調達と工事を分離発注することで、木材の乾燥、製材、加工等に必要期間を十分に確保する、地元業者の受注可能性を高める等のメリットがあるが、端材の処理等を考慮しておかないと、業務量、経費の増加というデメリットが大きくなってしまふ。

○学校の武道場の多くは、平屋で平面形状は梁間方向10~12m、桁行方向4.5m程度の規模で、木造建物として最適と言える。

○技術的な項目についても、読み取ってもらいたいポイントを分かりやすく示す必要がある。

○木造は高いのではないか、スケジュールも大変そうでよく分からないという声が多く聞かれるなか、前向きに取り組んでもらえるように取りまとめたい。

以 上